

サハリン事務所現地レポート

2018年2月

(件名) ワールド・スキルズ・ロシア (略称: WSR) サハリン大会視察

報告者: 主査 梶山 雅生

2月6日から8日にかけて、ユジノサハリンスク(3ヶ所)、ホルムスク(1ヶ所)、ノボアレクサンドロフスク(1ヶ所)の3都市で、第3回 WSR サハリン大会が行われた。WSRは様々な業種において専門技術を学ぶ学生達が、その技術力を競う大会である。本大会は今年8月にサハリンで開催される全国大会の予選会であり、サハリン全土から24種目157名の学生が参加した。全国大会では60種目の競技が行われ、ロシア全土から約2,500名が参加する一大イベントとなる予定。

今回視察した種目のうち3種目を紹介する。(下記の他、視察した会場ではパン作り、菓子作り、料理作り、理美容の各部門のコンテストが行われていた。)

①ファッション・デザイン部門 ~ 女性用ジャケット(型紙有)やドレス(型紙から)、自身のデザインによるスカートを制作。服飾技術だけではなく、デザインや独創性が審査される。

②グラフィックデザイン部門 ~ 5つのテーマについて、ロゴを作成し、そのロゴを使用した名刺や入館カードのデザインを行い、その後それらのコンセプトのプレゼンを行う。

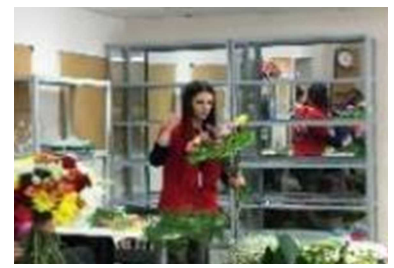
③フラワーアレンジ部門 ~ 今年新たにできた部門。初日は花束、2日目は生け花、3日目に結婚式用のコサージュ制作が課題として与えられた。



ファッション・デザイン部門



グラフィックデザイン部門



フラワーアレンジ部門

(件名) 「劇団風の子北海道」の訪問

報告者: 主査 阿部 大祐

90年代初めより、ロシアにおいて演劇による文化交流を行っている「劇団風の子北海道」の一行が、2月末に当地を訪問したので報告する。今回の訪問では、2月27日、ユジノサハリンスク市内の子供人形劇場において演劇公演を行った。会場は、市内の学校から集まった小学生で満員であった。演目は、子供たちの知覚や感性に焦点を当てた作品「うしろの正面なんだ」であり、平成29年度、厚生労働省の児童福祉文化賞を受賞している。劇は日本語で行われたが、役者の体いっぱい使った動作やたくみな表現に、当地の小学生は心弾ませ歓声とどよめきを上げ会場は大きな笑いの渦に包まれた。言語の介助すら必要としない芸術表現を理解する子供たちの繊細な感覚に、文化を超えた人間共通の感覚があることを知った。

一行は滞在中、ネベリスク市やホルムスク市においても巡演を行い、市民の好評を博したとのことである。滞在最終日は、ユジノサハリンスク市内の幼稚園数か所で公演が予定されていたが、折悪く、サハリン州を襲った猛吹雪のため中止となったのが残念である。今後も「劇団風の子」北海道は、サハリン側の人形劇場との相互訪問を通じて、演劇文化の交流や相互理解を深めていくとのことである。

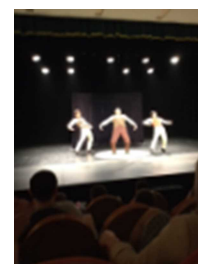
本年は、両国首脳が一昨年合意した「ロシアにおける日本年」及び「日本におけるロシア年」という人的交流の拡大に向けた記念すべき年であるので、サハリン事務所としてもこのような両地域間の文化交流が一層促進されるよう支援していきたい。



会場の様子(於:子供人形劇場)



公演前のオープニング
挨拶する植村代表(右から2人目)



演劇公演の様子